

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第六学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「言葉」を問う問題】

- 1 次の漢字の中から、似た意味をもつ漢字を組み合わせて、二字の熟語をつくりましよう。

言 助 心 動 救

「救」「助」は、どちらも「助ける」という意味です。

救 助

レベル 8

画 数 本 絵 動

「絵」「画」は、どちらも「絵」という意味です。

絵 画

レベル 9

- 2 次の文の―線部に対する主語を書きぬきましょう。

(1) 姉にたのまれて、私は日曜日に飼っている犬とネコにえさをあげた。

だれが「えさをあげた」のかを考えましょう。また、主語を書きぬくときには、「は」や「が」までを書きましよう。

わたしは

(2) とても人気のあるレストランが、わたしの住む町に建設された。

何が「建設された」のかを考えましょう。

レストランが

- 3 次のア～エの文の中から、慣用句「羽をのばす」の使い方が正しいものを一つ選びましょう。

ア 習い事がない日に、友達と公園で思いきり遊んで、羽をのばした。
イ 友達とケンカしたが、次の日にはもう羽をのばして仲良く遊んだ。
ウ 重い荷物を運んでいる友達に、羽をのばした。
エ 卒業式での合唱は、多くの人の羽をのばした。

レベル 8

ア「羽をのばす」…自由、気楽になる
ウ「手を貸す」…手伝う
イ「水に流す」…なかったことにする
エ「胸（むね）を打つ」…感動する

ア

- 4 次の文の―線部がくわしくしている言葉としてあてはまるものを、ア～オの中から一つ選びましょう。

レベル7

- (1) 明日の小学校の運動会は、雨予報のため延期えんきになった。

ア 小学校の
イ 運動会は
ウ 雨予報のため
エ 延期に
オ なった

「明日の」何なのかを考えてみましょう。そうすると、どの言葉をくわしくしているのが分かりやすくなります。

イ

- (2) 白い飛行機雲が、長くまっすぐに空にのびている。

ア 白い
イ 飛行機雲が
ウ 長く
エ 空に
オ のびている

「まっすぐに」何なのかを考えてみましょう。そうすると、どの言葉をくわしくしているのが分かりやすくなります。

オ

- 5 次の□の中の文の…線部を、―線部の敬語けいごと同じ使い方の敬語に直しましょう。

レベル8

- (1) 校長先生がいすにおすわりになる。

警察けいさつのかたが、安全な自転車の乗り方について話す。

「話す」のそんけい語は「お話しになる」です。「おくになる」もそんけい語の言い方の一つです。

お話しになる

五年生で学習したけい語は三種類あります。ていねい語は、「です」「ます」「ございます」などの言葉を使い、相手に対するけい意を表します。そんけい語は、相手や話題になっている人を高めることでけい意を表す言い方です。「いらっしゃる」「おっしゃる」などがあります。けんじよう語は、自分や身内の動作をけんそんなで、その動作を受ける人へのけい意を表します。「うかがう」「いただく」などです。

- (2) 来週、校長先生が私に賞状をくださる予定です。

「くださる」は「くれる」のそんけい語です。

先生が言うとおりに、火のあつかいにはとても気をつけなければなりません。

「言う」をそんけい語に直すと「おっしゃる」になります。

おっしゃる

復習シート 第六学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「話すこと・聞くこと」を問う問題】

1

松山さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることにしました。電車の運転士に興味のある松山さんたちは、電車の運転士の森さんにインタビューをすることにしました。次の【インタビューの様子の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【インタビューの様子の一部】

松山さん

わたしたちは、働くことについて考えるために、興味のある仕事について調べています。今日は、森さんの仕事と意思についてうかがいます。どうぞよろしくお願いします。

森さん

こちらこそ、よろしくお願いします。

松山さん

はじめに、電車の運転士として、森さんが大切にしていることを教えてください。

森さん

電車は多くの人の生活を支えていますので、何よりも安全に、安心して乗っていただくことを大切にしています。

松山さん

安全や安心はとても大切ですね。①安全に運行するために、どのようなことを心がけているのですか。

森さん

電車は時こくどおりに運行することが求められますが、急いでしまうと、思わぬ事故につながる可能性があります。ですから、確にんを一つ一つていねいに行い、落ち着いて運転するようにしています。また、電車の安全を守っているのは、運転士だけではありません。

松山さん

そうなんですか。運転士のほかに、どのような人が関わっているのですか。

森さん

運転士はもちろん、車両を点検・整備する人や、運行の状況きようを確にんして指示を出す人など、多くの人が協力して安全な運行を支えています。

松山さん

②なるほど。たくさんの方が力を合わせて、乗客の安全を守ってくださっているんですね。わたしたちは電車は時間どおりに走ることが一番大切だと思っていました。それ以上に、安全を第一に考えて仕事をしていることが分かりました。

（インタビューが続く）

※本文は令和七年度 全国学力・学習状況調査 国語

大問1の3を参考に作成 問題は埼玉県独自のものです

（1）【インタビュ어의様子の一部】の松山さんが ー線部①のように発言したよさとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選びましょう。

レベル7

ア 自分の意見を強く伝えているところ

イ 話題を変えて、新しい内容を聞いているところ

ウ 相手の話を受けて、話を詳しく聞こうとしているところ

エ 質問を短くして、答えやすくしているところ

話題を変えたり、自分の意見を強く伝えたりしているのではなく、相手の話をもとにして、考えや仕事の工夫を深く知ろうとする質問になっています。

ウ

（2）【インタビュ어의様子の一部】の松山さんが ー線部②のように発言した理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選びましょう。

レベル7

ア 相手の答えは自分たちが最初に考えていた内容と同じであることが分かったから。

イ 相手の話を聞いて、これからさらに質問したいことが新しく見つかったから。

ウ 相手の話に共感した部分を取り上げて、話題を広げようと考えたから。

エ 相手の答えと自分たちの考えを比べることで、考えを深めることができたから。

「電車は時間どおりに走ることが一番大切だ」という自分たちの考えと、「多くの人が関わり、安全を第一にして仕事をしている」という相手の考えを比べることで、電車の仕事についての理解が深まっています。

エ

（3）あなたが、松山さんだったら、電車の運転士の森さんにインタビュ어でどのような質問をしますか。働くことについて考えるための質問を、実際に話すように書きましょう。

レベル9

（例）電車の運転で大変なことはありますか。
電車の運転士としてのやりがいは何ですか。

例に示した質問などをもとに、目的に応じて、相手の話を受けて、さらに詳しく聞くようにすることが大切です。

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第六学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「書くこと」を問う問題】

1 次の【話題】について、自分はどちらがよいと思うかを明確にし、

意見文を書きましょう。

【話題】学校の宿題は、多い方がよいか、少ない方がよいか。

レベル9

【注意】

- 1 九十字以上、百二十字以下で書きましょう。
- 2 はじめに、自分がよいと思う方を選んで書きましょう。
- 3 次に、それをよいと思う理由や、もう一方に対する考えなどを書きましょう。
- 4 「わたしは、学校の宿題は」の書き出しに続くように書きましょう。

わたしは、学校の宿題は

多	理	ら	し	り	よ	う	好	し	で
い	由	で	よ	ま	い	。	き	て	は
方	は	す	う	す	と	し	な	し	な
が	、	。	来	。	言	か	こ	ま	い
よ	学	勉	の	自	う	し	と	う	で
い	力	強	選	分	人	、	ば	人	し
と	を	が	た	で	も	自	か	の	よ
思	の	で	く	勉	い	制	り	方	う
い	ば	き	し	強	る	で	し	が	か
ま	せ	る	が	す	で	き	て	多	。
す	る	と	広	れ	し	ず	過	い	
。	か	、	が	ば	よ	、	ご	の	

120

- 理由は、「理由は、～からです。」や「なぜなら、～からだ。」などの表現を使います。もしくは、「理由は二つある。一つ目は～」のような表現でもよいです。
- 文末の表現は、「敬体（です。ます。）」か「常体（だ。である。）」で統一しましょう。

意見文を書くときは、予想される反論と、反論に対する考えを取り上げることで、説得力が強まります。

はんろん

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第六学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「読むこと」を問う問題】

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

ある古い家の、まっくらな天井裏に、^{てんじょうら}「ツエ」という名まえのねずみがすんでいました。ある日ツエねずみは、きよろきよろ四方を見まわしながら、^{しほう}床下街道を歩いていきますと、向こうからいたたちが、^①何かいいものをたくさんもって、風のように走って参りました。そしてツエねずみを見て、ちよつとたちどまって早口に言いました。

「おい、ツエねずみ。お前んとこの戸棚の穴から^{とだな}こんぺいとうがばらばらこぼれているぜ。早く行ってひろいな。」

ツエねずみは、もうひげもびくびくするくらいよろこんで、いたちにはお礼も言わずに、いっさんにそっちへ走って行きました。ところが戸棚の下まで来たとき、いきなり足がチクリとしました。そして、

「止まれ、だれかつ。」

と言う小さなすうどい声がします。

ツエねずみはびっくりしてよく見ますと、それはありでした。ありの兵隊は、もうこんぺいとうのまわりに四重の非常線を張って、みんな黒いまさをふりかざしています。

二、三十ぴきはこんぺいとうを片^{かた}っぱしから砕^{くだ}いたり、とかしたりして、巢へはこぶしたくです。ツエねずみはぶるぶるふるえてしまいました。

「ここから内へはいつてならん。早く帰れ。帰れ、帰れ。」

ありの特務曹長が、低い太い声で言いました。

ねずみはくるつと一つまわって、いちもくさんに天井裏へかけあがりました。そして巢の中へはいつて、しばらくねころんでいましたが、^②どうもおもしろくなくて、おもしろくなくて、たまりません。ありはまあ兵隊だし、強いからしかたもないが、あのおとなしいために教えられて、戸棚の下まで走って行ってありの曹長に^{注1}けんつくを食うとは、なんたるしゃくにさわることだとツエねずみは考えました。そこでねずみは巢からまたちよ

ろちよろはい出して、木小屋の奥のいたちの家にやって参りました。

いたちはちようど、とうもろこしのつぶを、歯でこつこつかんで粉にしましたが、ツエねずみを見て言いました。

「どうだ。こんぺいとうがなかったかい。」

「いたちさん。ずいぶんお前もひどい人だね。私わたしのような弱いものをだますなんて。」

「だましやせん。たしかにあったのや。」

「あるにはあつても、もうありが来てましたよ。」

「ありが、へい。そうかい。早いやつらだね。」

「みんなありがとつてしまいましたよ。私わたしのような弱いものをだますなんて、償まじうてください。償まじうてください。」

「それはしかたない。お前の行きようが少しおそかったのや。」

「知らん、知らん。私わたしのような弱いものをだまして。償まじうてください。償まじうてください。」

「困ったやつだな。ひとの親切をさかさまにうらむとは。よしよし。そんならおれのこんぺいとうをやるう。」

「償まじうてください。償まじうてください。」

「えい、それ。持つて行け。てめえの持てるだけ持つてうせちまえ。てめえみたいな、ぐにやぐにやした男らしくもねえやつは、つらも見たくねえ。早く持てるだけ持つてどつかへうせろ。」

いたちはプリプリして、こんぺいとうを投げ出しました。ツエねずみはそれを持てるだけたくさんひろつて、おじぎをしました。いたちはいよいよおこつてさけびました。

「えい、早く行つてしまえ。てめえの取つた、のこりなんかうじむしにでもくれてやらあ。」ツエねずみは、いちもくさんに走つて、天井裏てんじょううらの巢うへもどつて、こんぺいとうをコチコチ食べました。

こんなぐあいですから、ツエねずみはだんだんきらわれて、注3たれもあんまり相手にしなくなりしました。

（宮沢賢治「ツエねずみ」より）

※一部常用外漢字をひらがなにしています。

（注1）けんつくを食う…とげとげしい言葉で断られること

（注2）償まじうてください…つぐなつて、うめあわせをしてください

（注3）たれも …「だれも」と同じ。

イ